

駅伝とは 心を繋ぐこと

法中校長室通信



R6,10,24

文責:船越 路央



前略 駅伝部の皆様

10月16日(木)に開催された西部地区駅伝競走大会、お疲れさまでした。猛暑が続く夏休みから、大会当日までの約2か月間。一人一人が目標実現に向けて頑張っている姿に、私自身たくさんの元気をもらいました。

女子は2年ぶりの参加でしたね。最初は自称「健康促進同好会」からスタートした皆さんでしたが、チームとしての絆を育み、ぎりぎりの5人でエントリーし走り切った皆さんに万感の拍手を送りたいです。男子は、従来のメンバーに新メンバーを加え、新しい風を吹かせてくれました。今年はいわゆる沿道走る一般的な駅伝ではなく、一区ごとにトラックを7週半走って合計タイムを競うという形式で戸惑いもあったと推察します。そんな中、今自分が出せる最高のパフォーマンスをして、倒れこみながらゴールをめざす姿に体が震えるほど感動しました。結果、目標としていた県大会出場には12秒足りませんでした。

でもこれだけは覚えておいてほしい。あなたの方の走る姿に、声を枯らして全力で応援していた仲間がいたこと、心配して仕事を休んでくださった家族がいたこと、エールを届けた在校生がいたこと。

そして、忘れないでほしい。自分たちは、「3000m(2000m)を別々の6人(5人)が走った」のではなく「駅伝」をしたのだと。駅伝とは心を繋ぐもの。一区から六区までの選手だけがタスキを繋ぐんじゃない。走れない補欠の気持ちや、会場に行きたくても行かない家族の想いも繋ぐんだ。ぎりぎりの5人でたたかった女子の気持ち、12秒差で悔し涙をのんだ男子の気持ちは、確実に後輩へと繋がった。これぞ駅伝。

いつかそれが本当の宝だと気づく日が必ず来る。本当にお疲れさまでした。

早々

熱い大人列伝その6 ～地域と中学生をつなぐ～



南部町公民館長の黒見です。中学生の限らないポテンシャルに期待しています。



後藤事務所の後藤秀一と申します。キナルなんぶを起点として、生徒たちとともに「起業」できないか模索中です。中学生が企業?とお考えかもしれません。でも働くとは、人を幸せにすることにつながります。柔軟なアイディア・発想力は中学生の今が旬なのです。地域クラブ移行が進む今だからこそ、いっしょにやってみませんか。

先月、中学校の同窓生Yとばったり会った。互いに当時の懐かしい話をしていたところ、YがUFOの話を持ち出してきた。…そういえば文化祭が始まる前のこんな季節だったと思われる。放課後、仲良し3人組で帰路についていた。今は撤去されたが、皆生道路を挟む形で歩道橋が設置されており、自分たちが、橋のてっぺんにさしかかった時…突然、湊山方面の上空に「細長い形をした物体」が現れ、左右に3～4回動いたかと思うと、光と共に加速しながら安来方面に消えていった。ほんの数秒だった。

カラスの群れが地面すれすれにとんでいった。地鳴りのような風が吹いていた。…今から50年以上前の記憶だが、鮮明に思い出される。翌日、級友たちに話をしたが「皆生旅館の光だろ?」とか「疲れてたの?」などと嘲笑されるだけで相手にされなかった。でも…。確かに僕たち3人は未確認飛行物体に遭遇した。

それだけは紛れもない、そしてとんでもない真実なのだ。



生徒の
名言

リーグとは、誰のために頑張る人、そのこともあきらめる人、みんなもつみこめるような人…ですわ。(生徒会執行部ミーティングより)